

◆ 3018年度活動報告シート ◆

団体名：社会芸術・寺山支部／炭焼の会
代表者：支部長 萩原哲哉（事務局 吉田富久一）
URL：

21A-23

1. 活動が必要とされた状況

炭の需用を考えてみますと、①鰻屋やお点前の燃料をはじめ、②近年注目されている空気や水の浄化、床下湿気止等の環境素材。③燃焼と農耕による二酸化炭素と酸素の互換（カーボン・ニュートラル）により、④バイオ炭は固定炭素を大地に戻せます（バイオチャー）。私たちは特に③と④に注目し、炭焼きや野焼きは地球上の炭素を整える循環保全の要と捉えました。



さぎ山の炭窯での炭焼き

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第1回炭焼き	4月24、25日	参加7名	メタセコイア炭	さぎ山の炭窯
バーベキュー大会	6月7日	参加10名	メタセコイア炭の燃焼実演	
第2回炭焼き	6月8、9日	参加2名	メタセコイア炭	さぎ山の炭窯
竹取り	7月5日	参加8名	膝子の農家	
第3回炭焼き	8月2、3、4日	参加8名	竹炭	さぎ山の炭窯
粃殻収集	11月17、18日	参加7名	農家	
第4回炭焼き	11月23、24日	参加10名	粃殻燻炭	膝子の田んぼ
竹藪清掃	12月21、22日	参加7名	膝子の農家	
第5回炭焼き	3月30、31日	参加10名予定	粃殻燻炭	さぎ山の田んぼ

3. 活動の成果

- ・ さぎ山の林地内に新設した炭窯における森林残渣の炭焼きとして、①伐採されたメタセコイアを炭に焼く。②農家に放置された竹藪より切り出した竹材を炭に焼く。

炭窯での焼成時間の目安は16時間と算出される。

収炭のほか、木酢液および竹酢液を収集しタールの沈殿分離を6ヶ月かけて行う。

メタセコイア炭は軽い割には、燃料として火保ちはよく、意外に有用であった。

- ・ 田んぼでの野焼きでは、③農業残渣として粃摺りで出された粃殻を燻炭に焼く。この春に畑の耕作土に燻炭、およびメタセコイアの粉炭を抄き込み、生育を観察。収炭した燻炭は有機農業者に配布し、作物への効用を聞き取る予定。
- ・ 今春より、バイオチャー効果と、木酢液および竹酢液の除虫効果を確かめるために、畑を借り（関連活動として、SUファーム結成）



膝子の田んぼでの燻炭焼き

4. 今後に残された課題

- ・ 原木の丸太切りと薪割りの合理性から、エンジン薪割り機の導入が必要。
- ・ 炭小屋（炭収納庫、資材置場、器具置場）の確保
- ・ より良炭に焼くためにねらしをする必要があり、窯内温度の測定しデータをとる。
- ・ ①環境浄化材としての炭、②沃土づくりのアルカリ材としての炭、③固定炭素として大地に戻す炭。これらの実践的統合を具体化する。